カンセカン (No.25





沖縄県立看護大学広報誌 2014(平成26年)11.26



CONTENTS

○看護大学を体験!オープンキャンパス ○シリーズ のぞいてみよう看護大学	2
・学部 「看護専門職論 II」	3
・学部 「クリティカル・緩和ケア演習」 …	
・学部 「老年保健看護実習 II」	
・大学院 「実践小児看護」	
• 看護技術試験 ····································	
・開学記念行事 大学見学ツアー	
・JICA 研修 中南米研修生来たる ··········	

○ 2014 海外研修ハワイセミナーに参加して	6
○発見!素敵な横顔	7
○那覇市保健所石碑文字	8
○サークル活動紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
○平成 26 年度 主な大学行事日程	8



1 2014 看護大学/ シ / プンキャッパス



【学部】看護大学のことをもっと知ろう!

広報・情報専門部会金城忍

平成 26 年 7 月 26 日(土)に開催されたオープンキャンパスには、350 名余りの方にお越しいただきました。大学紹介コーナーは、200 名収容の大講義室が満席になり、イスを追加して案内するほどの盛況ぶりでした。相談コーナーでは、本学の特徴や奨学金、取得免許、就職先についてもたくさんの質問を受けました。例年好評の「赤ちゃん教室へようこそ!」「血圧測定と手洗い」「命をつなぐ AED」の体験コーナーでは、ボランティアを務めていた学生たちから熱心に



説明を受けている来場者の姿が印象に残っています。また「キャンパスツアー」や「在学生・卒業生とのフリートーク」では、和やかな雰囲気の中で、学生ボランティアから入学後の様子を聞く姿が見うけられました。アンケートには「在校生がとても親切でとても良かった」「入りたい気持ちが高くなった」「参加して良かった」などの回答が多く寄せられ、来場者にとってたいへん充実した一日になったことと思います。

【別科助産】助産師への扉

別科助産専攻 中原芳子

今年の別科助産専攻のオープンキャンパスのテーマは、「助産師への扉」でした。助産師という存在とその役割や活動について知ってもらい、将来、助産師になる夢を持つ人が増えてほしいという思いからです。助産師の活動や助産師養成の進路については、ポスター展示で説明し、助産師が寄り添う生命誕生の世界については、動画を見ていただきました。そして目玉はやっぱり、本学専攻学生の実際の学生生活の紹介です。このオープンキャンパスにあたって学生達は、自分達の学んできたことや演習で使用している教材について、外部の方々にいかに伝えるかについて、熱心に考えてくれま



した。当日は高校生を中心にたくさんの方々に来訪いただき、学生も生き生きと対応する姿を目にしました。学生にとっては、ちょうど期末試験終了の時期で、今までの自分の学びの振り返り等、様々な思いを巡らせる機会になっていたのかなと感じています。そんな学生達の一生懸命な姿に密かに感動していた私でした。

【大学院】島嶼看護領域の遠隔授業風景

准教授 仲宗根洋子

本大学は、宮古島教室の開設と同時に離島実習が充実・拡大され、そして島嶼保健看護についての認知が深まってきました。同時に大学院では、離島勤務の保健師や看護師の修学に遠隔ツールを駆使した教育方法も定着してきたといえます。平成26年度は宮古島、八重山に加えて、久米島にもテレビ会議システムが導入され、大学とこれら3地点間でシステムを活用した授業が行われています。毎年4月ご



ろ感じられる隔足たり感は授業を重ねるごとに軽減し、大学における講義がスムーズに進められていきます。オープンキャンパスでは遠隔授業風景と受講生の様子を写真で紹介しました。来場者からは授業方法について多くの質問もありました。当日会場では、丁度宮古病院で老年保健看護実習中の学部学生と参加高校生による遠隔コミュニケーション体験で盛り上がりました。

平成 26 年度大学入試説明会 看護職を目差す受験生へ!

広報・情報専門部会 上原和代



本学では例年オープンキャンパスに合わせて大学入試説明会を開催しています (2014/7/26 実施)。今年度は学内外からの要望を受け、2回目の説明会を県内高校の進路指導に関わる教員、塾講師向けに開催致しました(同 8/4)。 出席者は合計 20 名で大学紹介 DVD の視聴の後、学長から「なぜ大学で看護を学ぶか?卒後、看護師という長い専門職人生において生涯学習する力を身につけるのに大切な4年間です。」と将来看護職を目指す高校生、在学生、卒業生への思いが語られました。後半は本学教員と出席者との間で本学の入試傾向、大学センター入試の変更に伴う受験生の動向など活発な意見交換がありました。今後は、看護師を目指す高校生へ本学の情報が丁寧に伝わるよう、多くの高校からの参加がいただけるように説明会の運営に努力したいと思います。



(学部) 看護専門職論Ⅱ 新人看護職者になる準備の開始!! 教授 宮城惠子

看護専門職論Ⅱは、これまでの学習を統合する科目のひとつとして、4年次前期に開講されます。「専門職業上の問題を探求すること」や「学生から看護職者への役割の移行期の課題」について学ぶ科目です。授業は、主体的に学べるように「グループワーク」「DVD 視聴」「課題学習とプレゼンテーション」等で構成されています。

授業では、新たに構築される医療提供体制や地域包括ケア時代に看護職者になる自身のキャリアや、それぞれが描く看護職者像について考えてもらいました。課題学習では「日本の保健医療システムの現状と課題」「臨地実習での具体的な体験をもとに、看護専門職に求められているもの」「臨地実習での具体的な体験のもとにケアの改善における課題を考察」についてのテーマを設定し、その成果を発表し学習を深めていきました。学生からの声として、保健医療システムの現状と課題として「医療施設の機能分化と連携・協働の必要性が理解でき、これからの看護職は、協働・連携を行うために、特にコミュニケーション能力を高める必要がある」との発言がありました。さらに、新人看護職者サバイバル法では「新人看護師ガイドラインを知ろう」「看護管理者やプリセプターからの学び方」「教えられ上手になろう」「所属部署のインフォーマルのルールを知ろう」等について、真剣に、時々笑い声の中で話し合いを行いました。続いて「新人看護師の1日」のDVD 視聴を行い新人看護職者になる準備をスタートしました。4年次のパワーを感じる時間でした。

【学部】 クリティカル・緩和ケア演習 主体的に学び、実践に活かせる演習を‼ 講師 赤嶺伊都子

「クリティカル・緩和ケア演習」は 1 単位 30 時間の科目です。従来のデモンストレーションを行った後に実施できるまで練習する演習方法を見直し、シミュレーション技法を取り入れています。学生が主体的に学習できるように、毎回のシミュレーション後に教員と学生がともにデブリーフィング(振返り)を行い、知識と技術を統合していく能動的な学習方法となっています。演習内容の一つである「手術後の観察と管理」では、モデル人形を用いて術後患者の状態を作り出すことから始めます。「ドレーンチューブはどこから挿入されていて先端はどこにあるの?ドレーンやガーゼの固定方法は?これは何のチューブ?」などと学生同士でディスカッションを進めながら取組み、術後患者の状態を理解し



た後に、術後管理のシミュレーションを行っています。学生たちは最終的に知識と技術が統合され、演習の翌週から始まるクリティカル・緩和ケア実習の実践に活かしています。学生の満足度も高く、学生が主体的に楽しく学ぶことができる演習です。

(学部) 老年保健看護実習Ⅱ 高齢者の尊厳を支えるケアを吟味する 准教授 佐久川政吉

4年次前期の「老年保健看護実習 II 」の目的は、「認知症を持ち、多様な場でケアを受けつつ治療や療養生活をしている高齢者の健康問題を総合的に理解し、高齢者の尊厳を支えるための具体的な看護実践ができる能力と、自己を振り返り課題を見いだす能力を習得する」ことです。その目的達成のために、1週目は治療・療養の場である病院、2週目は生活の場であるグループホーム等、沖縄本島や離島(宮古、石垣、久米島、津堅)で実習をします。

学生は積み上げてきた知識・経験をベースに、思考をフル回転させスピード感のある看護過程を展開していました。 高齢者の尊厳を支える実践例として、身体拘束に疑問を持ち、拘束時間が減るケアを工夫していました。また、経管 栄養中だが食べたいという意欲や手の動きが残っている強みに着目し、経口摂取に向けたケアを試みていました。 これからも、高齢者の尊厳を支えるケアとは何か?を吟味しながら、科目を充実させていきたいと思います。

【大学院】 実践小児看護 幅広い知識と方略の学修で高度実践者と教育者を目指す 教授 永島すえみ

「実践小児看護」と「実践」が科目の語頭に付いています。時代や社会の要請に対応できる専門職業人のリーダーとして高度のケアを実践できる実践家でありながら、学習や教育の原理を統合して看護教育に応用できる教育者としての資質を培うための学びを深めています。

現在 4名の院生が在席していますが、院生はそれぞれ昼間に勤務していますので、夜間 17時 40分~20時 50分、土曜日、日曜日の開講です。学習は、自らで課題の解決へ向けて情報を集め、集めた情報を基にして解決方法をまとめ、プレゼンテーションを実施し、看護実践の維持・向上の推進へとつなげてゆく姿勢が求められています。具体的な内容としては、子どもとその家族を包括的に査定するための原則、発達の評価・発達スクリーニング・発達検査・環境の評価について、医学的視点からの診断や治療のプロセス、薬理学、カウンセリングやコンサルテーション、日本のみでなく国外の子どもの発達に関する理論等、幅広い知識、方略などの学修です。

看護技術試験

看護技術試験を終えて 准教授 小池秀子

4年次学生 77 名を対象に客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination:OSCE)が、8月6日に行われました。本試験は、設定された臨床場面において対象の状態をアセスメントしつつ看護技術を適用する能力の修得状況を客観的に評価するものです。

公正公平が確保できるよう企画され、教職員 46 名が関わり約 5 時間を費やして実施されました。学生は、二つの課題に沿って模擬患者さんに看護技術を提供し、その一連の行為を二人の教員で評価しました。

学生は、過密スケジュールのなか連日のように練習した者から、1回だけしか練習しない者までおり、結果もほぼ完 ペきにできた者から時間が足りなかった者までさまざまでした。しかし、終了後も振り返りや再試験を受けるなどして、 個々の課題を確認していました。教員も振り返りを行いましたので、より洗練し来年度に臨むことになると思います。

開学記念行事

大学見学ッ

地域と協働のまちづくりにむけて 看護実践支援室運営委員会 糸数仁美

地域の皆さまとつながる機会づくり、子どもたちには、将来の職業選択のきっかけづくりになることを期待し、本学の開学記念日に「大学見学ツアー」を開催しました。与儀小学校区まちづくり協議会、中央公民館、与儀小学校児童の他、医療関係機関であるユートピア沖縄、近隣企業の琉球銀行、沖縄銀行の皆様、総勢 57 名の方が参加されました。参加された一般の方からは「これからもお互い協力していけたらと思います」、子どもたちからは「命は大切だと思った」、「看護に興味が持てた」などの声をいただきました。今後もこのつながりの輪が広がり、協働のまちづくりが皆様とともにできるよう、努めてまいります。







JICA研修

中南米研修生来たる

公衆衛生活動による母子保健強化にむけて 国際交流室運営委員 長堀智香子

2014年6月25日(水)に JICA 研修受け入れが本学で行われ、中・南米の国々から11名の研修員が来られました。当日は大学紹介、基礎看護講義・演習、助産に関する学生への教育についての講義を受け、最後は4年次学生15名との交流会がありました。交流会では最初にグァテマラの研修員からカントリーレポートの発表があり、続いて学生が4年間の学びを発表しました。続くディスカッション



では時間が足りないくらい活発な討議が行われました。研修員が本学での研修を通して、日本の看護・助産教育の理解を深め、帰国後それぞれの立場で何らかの形で現場に還元してくれることを期待しています。そしてこれからも、本学の強みを活かしながら国際協力に貢献できるよう努力していきたいと思います。



看大祭運営にあたって

看大祭実行委員長 知念祐弥

第 16 回看大祭を学生会で運営するにあたって、私は実行委員長に選ばれました。始めは、看大祭を成功させたいという漠然としたイメージの中で、委員長という大きなプレッシャーがのしかかっていました。全体の業務や進行状況を把握し、円滑に進められるようサポートしながら委員長の役割をやらなければならない中で、つまずくこともたくさんありました。副実行委員長からのサポートや、優秀な実行委員達が円滑に仕事を進めてくれたおかげで私自身の役割もスムーズに進み、昨年、一昨年よりも多くの来場者を迎えた今年の看大祭は、大成功という形で幕を閉じることができました。私にとっては、周りからの支えと自らの成長を実感した良い機会となりました。

change the world 世界のお産を救おう

別科助産専攻 古謝奈津紀

私たち、別科助産専攻は去った9月13、14日に「change the world 世界のお産を救おう」と称して、JOICFPの活動紹介と活動支援のためのバザーを行いました。

JOICFPとは、「国際的な目標でもある『世界中の女性たちが望まない妊娠をすることなく、いつ、何人産むか、産まないかを自ら選択し、安全に子を産み、安心して育てられる社会の実現』に向けて、途上国に暮らす一人ひとりが健康を守る力を身につけ、それをもとに地域全体の潜在能力を引き出し、伸ばしていけるような支援を行っている」団体です。この活動に賛同し、募金活動の一環として各自、自宅よりバザー用品を持ち寄り多くの方から支援をいただきました。また看大祭の準備にあたり、JOICFPのご厚意により活動内容が記載されたパンフレットやリーフレットの提供をうけることができました。

今回、来場してくださった方々が、少しでも母子保健やお産について興味を持ってくれたことを願います。



後夜祭実行委員長 森下智基

今年の後夜祭では、軽音サークルのバンドを始め、各学年のダンスやコントや歌を披露しました。私たち後夜祭実行委員は、夏季休暇期間の中、出演者とともに後夜祭を盛り上げるために、話し合いや練習を重ね、本番にベストな状態で臨めるように努力してきました。今回の後夜祭でも、多くの笑いと感動はもちろん、学生自身の協調性や主体性を身につけることができたと感じます。また、後夜祭は看大祭の打ち上げとしてだけでなく、学年の枠を超えみんなで盛り上げる場であり、普段関わりのない他学年とも交流を持つきっかけとなったと思います。最後になりましたが、2014年後夜祭に協力していただいた方、ご協力ありがとうございました。





2014 海外研修

ハワイセミナーに参加して

研修での学びを活かし、日本や海外で活躍する看護師に!!

3年次 宮城優希

平成 26 年 8 月 17 日から 9 月 5 日の 20 日間、引率教員 2 名と私達学生 19 名はカウアイ、オアフ島にてハワイ研修を行いました。

最初の2週間はカウアイ島で過ごし、カウアイ・コミュニティ・カレッジ(KCC)で授業を受けたり、病院や施設の見学を行いました。KCCではバクテリアや性教育などについて学べただけでなく、フラダンスやロミロミマッサージを通してハワイの心・考え方を感じ取ることができました。英語の授業では一つの事柄に対して様々な表現があること、大事なのは伝えようとする心であることを教えてもらい、それに加えてボキャブラリーを増やしていくことが英会話力の向上



に繋がると考えました。2日間のホームステイでは各々のホストファミリーと一緒にハワイの暮らしに触れることができました。

ハワイ大学でのシミュレーション施設では人形を使い、医学生とも協力しながら様々な患者に対応した処置が学べることに驚きました。人形の種類によっては汗を流したり泣いたりするため、実践に近い状態で技術を習得できるのだなと思いました。他にも、ハワイの保健医療制度を学び、そこから改めて日本の制度についてもっと学習していく必要があると考えました。

今回の研修で学んだことを今後の学習や卒業後に現場で活かしていき、日本に貢献するだけでなく、海外でも活躍する看護師になりたいと思いました。

アロハ・スピリッツに心から感謝して



引率教員 金城芳秀・糸数仁美

平成 26 年 8 月 17 日 (日) から 9 月 5 日 (金) まで、19 名の学生と引率教員 2 名で、ハワイ研修 2014 に参加しました。

最初の2週間はカウアイ・コミュニティ・カレッジ(KCC)での研修を中心に、英会話からフラ(hula)まで、さまざまな施設の視察からビーチ・デーでのボランティアまで、アロハ・スピリッツを学びました。ALOHAは、Akahai(思いやり)、Lokahi(調和)、'Olu 'olu(喜び)、Ha'aha'a(謙虚)、Ahonui(忍耐)という5つの単語の頭文字からなり、統合されると、こんにちは、さようなら、ありがとう、愛していますなど、使われる場面によってニュアンスも様々のようです。心を込めて「アロハ」と言葉を発するには、日々の生き方から問われているようです。刹那の出会いに涙ぐむ日系二世、美しく荘厳なワイミアキャニオン、



知恵の宝庫のボタニカルガーデン、私たち21名は人々から自然からたっぷりの愛情と癒しをいただきました。

一人ひとりの学生がホストファミリーと素敵な時間を過ごし、感動の修了式を終えて、次はホノルルの5日間です。ハワイ大学マノア校では、沖縄ディアスポラの講義から移民コミュニティで大切にされた沖縄人アイデンティティーを知り、ホスピス訪問では患者だけでなく、患者家族のセルフケアの必要性・重要性を再認識しました。さらに、日米の保健医療事情の比較や、事前指示書(Advance Directives)の最新文献からわが国の現状を知り、シミュレーション施設の見学から本校の備品整備上の課題を知りました。

私は2度目、糸数仁美先生は学部学生として1度、引率教員として初参加でした。初回の感動を徐々に思い出しながら、10年前と変わらない自然と人々の温かさに対しては pay it forward を心に誓って、貴重な時間を共に過ごすことのできた19名には We miss you!という気持ちで帰国することができました。

<mark>最後に、ハワイ研修にたずさわ</mark>った国際交流室運営委員会ならびに関係者のみなさまに、心より感謝申し上げます。









看護学部新任教員

■『心』を理解することの面白さ 教授 藤野裕子

夏の暑い時期、7月1日に精神保健看護の教授として、チャンプルーに似た名前のチャンポンで有名な長崎から来ました藤野裕子(ふじのゆうこ)です。写真のように、日本海側の漁師町で育ちましたので、小さい頃は毎日のように泳いでいましたが、沖縄に来て格別な海の碧さに感動を覚えました。長崎弁で、

あちこちさるく(歩き回るの意味)ことがすきなので、沖縄の美味しい店や穴場の場所を教えてくださると嬉しいです。精神保健看護では、複雑で奥深い人の心を理解することは難しいけれど、面白さも伝えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



島の看護を通し、自然や文化に触れる 助手 仲本勉

7月16日付けで老年保健看護の助手で着任しました仲本勉です。

臨床経験として、県内外の民間病院や沖縄県立病院において、20余年、主に高齢者や成人を対象として、病棟、透析、精神科訪問看護、産業看護などを経験してきました。島嶼を抱える沖縄県の看護師として、公立久米島病院と県立八重山病院に合わせて6年勤務しました。島の自然と文化に触れることが好きです。また、県立病院附属診療所の応援看護師として、南北大東島や粟国島にも行きました。臨床では、学生の実習指導に関わってきました。本学の諸先生方や学生と学び合いながら、老年保健看護の教育・研究に貢献できるよう精進していきたいと思います。皆様、宜しくお願いします。



事務局新任職員

あの世での婚儀 副参事 宮城正侑

私が生まれた日、姉は大笑いを強要されたと言います。男子が生まれた時の風習だったようです。 9人兄弟で唯一の男子が生まれたことは、門中の本家(ムートゥヤー)である我が家にとっては 特別だったようです。

門中は同じ門中墓を共有管理し、男系で引き継がれます。行事負担がかさむ妻の口癖は「知らないから嫁に来た。」です。当然、反抗などしません。

本家として相談事が舞い込んだ。離婚していた母が亡くなったが墓がない。離婚等で家を出た女性はこちらの墓に入る権利がないのだ。困っていたら、昔からある方法を教えられた。「死後でも再婚の儀をすれば家族として同じ墓に入れる」。人に寄り添い柔軟に対応してきた昔の知恵に拍手しました。



誰も書けない G 課長の横顔 学務課長 大城馨

去る4月に学務課長に着任した大城の横顔・・・そのまんま自分の顔について書くつもりですが、 ただ書くだけではおもしろくないのでウチナーグチも混ぜて書きます。

最初に目につくのは薄毛でチブルハギーであること。ガンチョーをかけ、それを外すと目は奥目でミーコーガーしているように見えます。鼻は、横から見ると頬骨が尖っているせいでハナビラーに見えます。歯は前歯2本が大きくメーバーです。顎はといえば、えらが張っていてハブカクジャーです。顔全体は、頬がこけてヨーガリカーガリしているので、ヒンスーに見えるようで、周囲からよく「ムヌヤーカドゥミ?」と心配されます。

ちなみに写真は、今では成人した娘が5才の時に描いた父親の似顔絵です。

看大の皆さん、カナガナトゥ、ユタシクウヌゲーサビラ (^o^)/ ニフェーデービル (__*)



那覇市保健所石碑の文字を

書いたのだ=れ?

力強い文字に願いを込めて 4年次 金城真実

那覇市が中核市に認定されたことを機に、那覇市保健所と名前を改めて発足することと なりました。それに伴い、石碑も新しくするとの事で、今回の石碑文字を書かせていただ く事になりました。

石碑文字には、那覇市保健所が地域の方々から信頼され、今後も発展し続けるように という願いを込めて、力強くのびのびとした文字をイメージして書きました。今後も、 中核市を支える機関として那覇市保健所が益々繁栄する事を願っています。



サークル活動紹介

学生ちゃんぷる~ 3年次 長濱里恵

学生ちゃんぷる~サークルは、本学の学生と教員、地域との交流を主な活動としています。島しょ県である沖縄について学ぶ「離島研修」や、学生・教員との「クリスマス会」「新年会」、学生同士の交流の「新入生歓迎お好み焼き会」など学生自身の提案で企画・活動をします。また、琉球大学・名桜大学とともに、沖縄県看護系3大学合同サークル「学生コンソーシアム」での活動も行います。これらの活動から学生同士で学びあい、看護に対する見聞も広がっています。



マラソンサークル 4年次 吉村基見

マラソンサークルは文字通りマラソンに参加するサークルです。現在は予算や実習などの予定の都合上4月に行われる「伊江島一周マラソン(ハーフ)」の一つのみに参加しています。練習はほとんど行ってなく参加するメンバーのほとんどがぶっつけ本番で走っていますが、大多数が完走できています。なにより汗を流して、みんなと一緒にはしゃぐ後夜祭というのはとても楽しいです。今後は参加するマラソンの数も増やそうと考えているので実現できたらいいなと考えています。マラソンサークルでした!



●平成 26 年度の主な大学行事(平成 26 年 4 月~平成 27 年 3 月)

4月 3日(木)入学式

4月 7日(月)前期授業開始

5月15日(木)開学記念日

7月26日(土)オープンキャンパス

8月17日(日)~9月5日(金)ハワイ研修

9月 6日(土)大学院入試

9月13日(土)~14日(日)第16回看大祭

10月 1日(水)後期授業開始

11月15日(土)特別選抜入試(看護学科)

11月15日(土)推薦選抜・社会人特別選抜入試(別科助産専攻)

1月17日(土)~18日(日)大学入試センター試験

2月12日(木)一般選抜入試(別科助産専攻)

2月12日(木)大学院入試2次募集(後期課程)

2月25日(水)一般選抜入試(前期・看護学科)

3月12日(木)一般選抜入試(後期・看護学科)

3月15日(日)卒業式



「かせかけ」とは

かせかけとは、琉球古典舞踊七踊りの一つです。綛(かせ)とは紡いだ糸を巻く道具で、綛掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。沖縄県立看護大学は、国際的視野に立つ看護職者の育成をめざしています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って綺麗な着物に仕立てていく、その一途の心と地道にして洗練された「技術」・「感性」・「情熱」そして優しさは、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称にしました。

【沖縄県立看護大学】

〒902-8513 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号 TEL (098)833-8800 (代表) FAX (098)833-5133 http://www.okinawa-nurs.ac.jp

編集:沖縄県立看護大学/広報・情報専門部会 発行:2014(平成26年)11月26日

沖縄県立看護大学